記録

名古屋市で確認された特定外来種クビアカツヤカミキリ (コウチュウ目カミキリムシ科) について

戸田 尚希

名城大学農学部昆虫学研究室 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜□1-501

Invasive Alien Species, *Aromia bungii* (Coleoptera Cerambycidae) confirmed in Nagoya city, Aichi Japan

Naoki TODA

Laboratory of Entomology, Faculty of Agriculture, Meijo University 1-501 Shiogamaguchi, Tenpaku-ku, Nagoya, Aichi, 468-8502 Japan

Correspondence: Naoki TODA E-mail: 0000@0000

要旨

日本国内で分布を拡大しているクビアカツヤカミキリが、名古屋市内で発生していることが明らかになった。本報告では、2019年10月現在の名古屋市内での本種の分布及び被害の状況についてまとめた。

はじめに

クビアカツヤカミキリ $Aromia\ bungii$ (Faldermann, 1835) (Fig.1, 2) は,体長 $22 \sim 40$ mm 黒色でツヤがあり、前胸は赤橙色で両側にコブ状の突起を持つカミキリムシである.雌成虫は交尾後,幹や主枝の割れ目などに産卵し,その後 $2 \sim 3$ 年で成虫になる.孵化した幼虫は内部へ侵入し摂食するが,その際に特徴的なフラス(=幼虫の糞)(Fig. 3)を排出する.

本種は、ロシア極東部から中国、朝鮮半島、北ベトナムにかけて自然分布するが、2011年に日本で初めて埼玉県で成虫が採集され(加賀、2018)、その翌年(2012年)には愛知県の海部地域で発生が確認された(愛知県、2013)、2018年現在で被害発生は7都府県、成虫発見は9都府県にまで分布を拡大しており(加賀、2018)、愛知県内では、最初の発見地より徐々に広がりをみせ、名古屋市にも到達した。

幼虫は、国内では主にサクラ、ウメ、モモなどのバラ 科樹木に穿孔して食害しており、多く加害されると被害 木は枯死する被害がでている. また国外では, サクラ, スモモ, ウメ, カキ, オリーブ, ヤナギ, ザクロ, コナラ などを食害することも報告されている (愛知県, 2013). ことさら日本において, サクラは花見の主役であり,

重要な観光資源となっている。また、徳島県ではモモの被害も発生しており(応動昆学会、2017)、分布が広がれば農業被害も甚大となるであろう。これにより2018年には特定外来種に指定され、生きたままの運搬や飼育、保管、輸入、販売、譲り渡し、そして野外への放出が禁じられている。

これまで名古屋市内では本種の侵入は確認されていなかったが、2019年、名古屋市職員からの情報をきっかけに名古屋市港区を中心にした地域で本種が発生していることが確認された。筆者は、なごや生物多様性センターとともに、名古屋市内での発生状況及び被害状況を調査したので報告する。

発見の経緯

6月24日,名古屋市職員より「なごや生物多様性センター」へ、クビアカツヤカミキリの疑いがある昆虫を捕獲したとの連絡が入った。同日午後、センターの職員が調査に向かったところ成虫が多数確認された。同時に筆者に調査協力の依頼があり、翌25日午前中に同職員の方々と共に現地を確認した。当日は天気も良く、発生のピークを迎えていたと思われた。

発生と被害の状況

筆者らが確認を行った6月25日は、午前中にサクラの 梢を飛ぶ個体が少数みられたが、前日駆除した為か個体 数は多くなかった。一転、午後になると個体数は増し、 何本かのサクラを見て回るたびに、同じ木で交尾個体が いくつもみられた。



Fig.1 クビアカツヤカミキリ&成虫



Fig.3 特徴的なカリントウ状のフラス

今回確認された発生地では、ソメイヨシノとサトザクラが食害されていた。食害場所は主に地上から2mほどまでで、根あがり部から根元にかけて多くのフラスがみられた(Fig.4, 5)。また、樹幹には若齢幼虫を封殺するためと思われるヤニが多く見られた(Fig.6)。

8月6日に幼虫確認の為に被害木を確認したところ、 樹皮下は広く食害がすすみ (Fig.7), 幼虫 (Fig.8) が確 認された. 倒木防止のため伐採された主枝の断面には、 樹皮下のみならず幹内部へと喰い進んだ食痕がみられた (Fig.9, 10).

筆者及びなごや生物多様性センター職員によって確認・捕殺した個体,及び市民から寄せられた情報をもと



Fig.2 交尾中 (上が♂, 下が♀)



Fig.4 根際にたまったフラス

に2019年の名古屋市内での発生状況をTable. 1 に,また被害木の状況をTable. 2 にまとめた.表中の「フラス」は,フラスのみ確認.「捕殺」は,センター職員と筆者が捕殺した個体であり,「写真」・「動画」・「死骸」は,寄せられた情報の中で,写真などでクビアカツヤカミキリと確認できたものである.なお,発見された6月24日から7月10日までは,毎日現地調査に出向き確認し,その後は任意に調査を行った.また,詳細な地名については,民有地も含まれるため明記を避けた.



Fig.5 根あがり部から出たフラス



Fig.7 樹皮下の食痕

今後の課題

クビアカツヤカミキリの駆除は、各自治体とも苦労を しており、現状ではなかなか根絶は困難である。効果の ある薬剤や攪乱性フェロモン剤もでてきてはいるが、や はり被害木を早急に発見し、伐採し伐根までして処理す る事が発生数を抑え、拡散を防ぐには有効であろう。

謝辞

駆除・調査にご同行頂いた「なごや多様性センター」の職員の方々、並びにセンターへ情報をご提供くださった方々、名古屋市の伊藤健太郎氏、国内に於ける分布状況やその他の知見をご教示いただいた、豊橋市立自然史博物館の長谷川道明氏に深くお礼申し上げる.



Fig.6 フラスの排出とヤニ



Fig.8 樹皮下より見つかった幼虫

戸田 (2020) 名古屋市で確認された特定外来種クビアカツヤカミキリ (コウチュウ目カミキリムシ科) について



Fig.9 伐採時の被害木 主枝内部の断面



Fig.10 被害木の根際の断面

引 用 文 献

愛知県,2013. 平成25年度病害虫発生予察特殊報第2号, 愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室. (社)日本応用動物昆虫学会,2017. 省庁間連携による侵入 害虫クビアカツヤカミキリの防除対策に関する要望書 加賀,2018. クビアカツヤカミキリAromia bungiiの侵入 とその対策,第9回日本甲虫学会大会講演要旨集:13.

Tab.1 確認された個体数及び確認方法

年月日	地域	オス	メス	不明	計	確認方法
6/24午前	港区a	5	2	2	9	捕殺・フラス
6/24午後	港区a	30	12		42	捕殺・フラス
6/24午後	港区b	1			1	捕殺
6/24午後	港区c	3	2		5	捕殺
6/25午前	港区a			3	3	捕殺・フラス
6/25午後	港区a	45	17		62	捕殺・フラス
6/25午後	港区c	1			1	捕殺
6/25午後	港区j				0	フラス
6/26	港区a	11	6	3	20	捕殺・フラス
6/26	港区c			3	3	捕殺
6/26	港区e			12	12	捕殺
6/27	港区a			1	1	捕殺・フラス
6/28	港区a	2	4	1	7	捕殺・フラス
6/28	港区f		1		1	動画
6/28	港区g			1	1	成虫写真
6/29	港区a	10	7		17	捕殺・フラス
6/29	港区h		1		1	成虫写真
6/29	港区i	1			1	死骸
6/30	港区k				0	フラス
7/1	港区a			1	1	捕殺・フラス
7/2	港区a	4	6		10	捕殺・フラス
7/2	中川区a			4	4	捕殺
7/3	港区a	1	2		3	捕殺・フラス
7/3	港区1				0	フラス
7/4	港区a	1			1	捕殺・フラス
7/5	港区a			2	2	捕殺・フラス
7/8	港区d		1		1	捕殺
7/9	港区a				0	フラス
7/10	港区a				0	フラス
7/10	港区e			2	2	捕殺
7/16	港区a				0	フラス
7/16	中川区b	1			1	成虫写真
7/17	港区a	1			1	捕殺
7/19	港区a				0	フラス
8/6午前	港区a		1		1	捕殺
10/10	瑞穂区				0	フラス
計		117	62	35	214	

Tab.2 被害木の状況

地域	樹種	本数
港区a	ソメイヨシノ	20
港区b	ソメイヨシノ	1
港区c	ソメイヨシノ	2
港区d	ソメイヨシノ	2
港区e	ソメイヨシノ	1
港区j	ソメイヨシノ	1
港区k	ソメイヨシノ	1
港区1	ソメイヨシノ	1
中川区a	サトザクラ	1
瑞穂区	ソメイヨシノ	1